

【様式1】 平成29年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	中津川市	学校名	中津川市立田瀬小学校			
校長名	林 義成	対象学年	第3～6学年	人数	29人	
活動名	私たちの付知川（第3学年） 田瀬の歴史文化財（第4学年） 田瀬の豊かな農業（第5学年） 誰もが笑顔になるために（第6学年） 田瀬っ子祭り（生活・総合発表会）（全幹）	時間数	49（第3学年） 33（第4学年） 33（第5学年） 36（第6学年） 3（全学年）	時間	継続年数	16年
題材	① 自然環境（山野・河川・動物・植物・その他） ② 歴史（出来事・史跡・先人・その他） ③ 文化（芸能・芸術・民話・風習・その他） ④ 地場産業（農業・水産業・伝統工芸・その他） ⑤ 地域との積極的な関わりをつくる活動等 ⑥ その他（ ）		[付知川と水] [田瀬の歴史] [田瀬の伝統行事] [田瀬の農業] [自分たちができること・福祉] []			
複数年継続するための工夫改善	学んだふるさとのよさを発信する場として「田瀬っ子祭り」を開催することで、日頃お世話になっている地域の方々や高齢者を一度に招待することができる。「伝える」ために児童はまとめ方や発表の仕方を真剣に工夫する。「田瀬のよさを改めて知った！」「元気をもらった。」等の感想を直接聞き、児童と職員共に大きな達成感を持ち次への意欲につなげている。					
<p>1 ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然や人々の中に入り込んで調査や取材を行うことで、ふるさと田瀬のよさを知り、田瀬をより「大事にしたい」「よくしたい」と願う児童を育てる。 ・学習したことを地域の方々に見てもらおう「田瀬っ子祭り」での温かな交流を通して、相手の気持ちを考えながらよりよく生きる基礎を培う。 <p>2 活動の概要</p> <p>（1）ふるさと田瀬のよさを学ぶ学習の推進</p> <p>第1・2学年は生活科で「相手に楽しんでもらえるおもちゃ」を工夫して作った。それらを使った「お店屋さん」になり、地域の方々・祖父母をお客さんとして迎え交流した。総合的な学習の時間に第3学年は「付知川」、第4学年は「田瀬の歴史」、第5学年は「田瀬の農業」、第6学年は「福祉」について学んだ。児童は地域に出かけ、体験活動や取材を通して「川の先生」「酪農の先生」「畑の先生」「南宮神社の先生」「高齢者福祉の先生」等、多くの地域の方々から田瀬のよさを学んでいる。</p> <p>（2）学んだことを地域に伝える活動の充実</p> <p>生活科や総合的な学習の時間に学んだことを地域の方々へ発信する場として、地域参観日「田瀬っ子祭り」を毎年11月に実施している。この会には地域安全ボランティアや放課後クラブの方々、高齢者の会の方々を学校へ招待し、日頃の感謝の気持ちを伝えている。さらに、平成32年度の統合に向け、下野小の第1・2学年、下野保育園の年長児を招き交流を行った。来場者の数は100名程（児童数の約2倍）と賑わった。</p> <p>3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子</p> <p>様々な機会をとらえて日頃の感謝の気持ちを伝えている。今年度も地域行事の参加依頼にできる限り応えた。宅老所や保育園、障がい者支援施設への訪問と触れ合い、地域産業祭への参加、敬老会での合唱合奏披露等を実施した。それぞれの催事で発表をするたびに、地域の方からは多くの拍手や涙を頂いている。</p> <p>4 活動を通しての児童生徒の変容</p> <p>振り返りの集会では、「今までお世話になった感謝の気持ちを伝えられたよかった。」「自分たちの発表で感動していただけたお年寄りが何人もみえてよかった。」という感想が多く上がった。この言葉通り、発表では相手の立場を意識し、高齢者にも伝わるようにと大きな声で話したり、劇にしたりすることができていた。また、一方的な発表会にならないように体験や参加型の発表もあった。更に、この田瀬っ子祭りをゴールとするのではなく、相手の気持ちを考えた行動をしていきたいと語る子どもの姿があった。</p>						